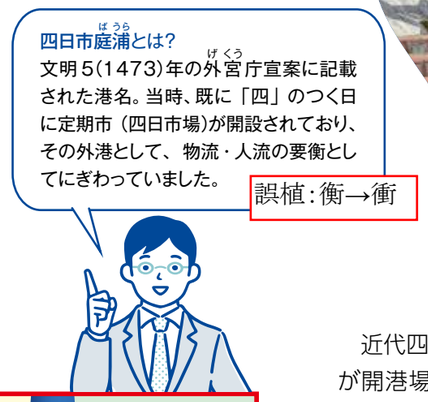
四日市港四日市地区

四日市庭浦から歴史と未来をつなぐ港へ

Yokkaichi Port

四日市港は、令和４年の貿易額総額が全国の港の中で 11 位を誇る日本有数の国際貿易港です。令和４年の年間貨物取扱量は約 5,500 万トンで、化学薬品、自動車部品、揮発油などを輸出し、原油、LNG、石炭などを輸入しています。世界中の国々を結び、私たちの暮らしに欠かせない物資を運ぶ役割を担う、四日市港の発展の原点である四日市地区の歴史を振り返り、身近な港の魅力をお伝えします。

※出展：令和４年　全国開港別貿易額表（神戸税関）



近代四日市港の歴史は、明治時代に始まります。四日市港が開港場に指定された明治 32 (1899) 年頃は、食料品、肥料の輸入が中心でしたが、その後、近代化の流れの中で、工業港として発展していきます。

四日市港の沿革

明治　3年	●四日市―東京間定期航路開設
17年	●稲葉三右衛門の旧港修築工事完成
32年	●開港場に指定（外国との貿易が始まる）
35年	●繰綿の輸入開始
昭和　7年	●豪州定期航路が寄港、羊毛の輸入開始
27年	●特定重要港湾に指定
34年	●第一コンビナート（塩浜地区）本格稼働開始 ●伊勢湾台風の被害を受ける
38年	●第二コンビナート（午起地区）本格稼働開始
41年	●四日市港管理組合設立
43年	●四日市港とシドニー港、姉妹港提携調印
44年	●豪州コンテナ航路第一船が入港
47年	●第三コンビナート（霞ヶ浦地区）本格稼動開始 ●乗用車の本格輸出開始
平成　8年	●旧港港湾施設（潮吹き防波堤ほか）が国の重要文化財に指定 ●四日市港国際物流センター完成 ●第 11 回「海の祭典」が四日市港を中心に開催
10年	●末広橋梁が国の重要文化財に指定
11年	●開港 100 周年、四日市港ポートビルオープン
14年	●四日市港管理組合が単独港湾管理者として日本で初めて、ISO14001 の認証を取得
16年	●スーパー中枢港湾に指定
17年	●指定特定重要港湾に指定
23年	●特定重要港湾から国際拠点港湾に名称変更
令和 元年	●開港 120 周年記念四日市港まつり開催
2 年	●四日市みなとまちづくり協議会設立
3年	●四日市みなとまちづくりプラン [基本構想] 策定

※細字は四日市地区以外

四日市港四日市地区は、いわゆる旧港を含むエリアで、四日市港発祥の地です。四日市港の歴史を感じられる風景を残しながら、国際貿易港として、第１・第２・第３の公共ふ頭を中心に四日市港の物流を支えています。現在、四日市地区では、とうもろこしをはじめとした穀物や、金属・非金属鉱物などを取り扱っています。

四日市港四日市地区をめぐる

四日市港始まりの地、旧港を含む四日市地区は、幕末から明治初期にかけて、伊勢湾最大の商業港としてもにぎわってきました。歴史ある港の風景と昔ながらの風情が楽しめる貴重な運河や国指定重要文化財「末広橋梁」、「潮吹き防波堤」などまちあるきを楽しめる港です。

参考：四日市旧港まちあるきＭＡＰ（四日市港まちあるき実行委員会）

四日市地区見どころ

他にも見どころたくさん！探してみてね！

1 稲葉翁記念公園

四日市湊を修築して、近代港湾への基礎を築いた稲葉三右衛門の偉業を記念して、旧港の岸壁近くに作られた公園です。潮吹き防波堤の仕組みを再現したレプリカ模型が展示されています。

2 潮吹き防波堤

明治26年、服部長七によって築かれました。長七は、波の力を弱めるため、堤防の腹部に穴をあける工夫をし、発明した強固な人造石を活用した、堤防をつくりました。平成８年、国の重要文化財に指定されました。

3 波止（なみどめ）改築記念碑・稲葉三右衛門君彰功碑（くんしょうこう）

波止改築記念碑は、防波堤改築を記念して明治27年に、稲葉三右衛門君彰功碑は、明治30年に建てられました。いずれも潮吹き防波堤とあわせて国の重要文化財に指定されています。

4 プロムナード

高潮護岸の防壁前面平場を利用して、旧港から千歳橋までの遊歩道として、平成３年に整備されました。旧港を眺めながら散策できます。

5 みなと公園

物流と人流を分離するために整備された公園です。オーストラリア製のレンガ舗装の園路や、噴水、ベンチ、トイレなどが設置され、四季を通じて港に親しむことができます。

6 ボードウォークと壁画

約100ｍのボードウォークから、さまざまな船を眺めることができます。壁画は、地元高校生によるもので、平成８年に完成しました。

7 臨港橋

千歳運河に架けられた可動橋（跳ね上げ橋）です。船舶が通るときは、遮断機で車の通行を止め、中央部の橋げたを約70度押し上げて開きます。初代は昭和７年に竣工しました。現在の橋は、平成3年に完成した３代目です。

8 末広橋梁

千歳運河に架かる現役唯一の跳開式可動鉄道橋です。昭和６年に竣工しました。全長58ｍのうち、中央部16ｍの橋げたが80度ほど跳ね上がります。平成10年に国の重要文化財に指定されました。

9 相生（あいおい）橋

夜になるとライトアップされ、昼間とは違った雰囲気を醸し出し、地域の人々に親しまれています。初代は明治23年、当時の袋町、高砂町両町民の負担で架けられた木橋でした。現在の橋は３代目で、平成７年に完成しました。

10 稲葉翁銅像

昭和２年、市制30周年記念事業として、近代港湾の基礎を築いた稲葉三右衛門の銅像がつくられましたが、戦時中の金属供出によって失われました。現在の像は、昭和30年に作られた２代目です。

みなとまちづくりの未来

四日市港四日市地区は、地域の発展をけん引してきましたが、今もなお、古き良き歴史的景観を残しているため、従来の物流機能にとどまらず、人に寄り添い、訪れる人をもてなす「みなとまち　よっかいち庭浦」として多くの人・ものが集まり、にぎわう交流拠点としての活用が期待されています。

歴　史

古き良き港景観・文化を学び、楽しめる「みなとまち」をつくる

江戸時代から明治初期にかけて伊勢湾最大の商業港としてにぎわった四日市地区には、国指定の重要文化財である「末広橋梁」や、「潮吹き防波堤」などの歴史ある港の風景を味わえる貴重な運河が現在も存在します。

交流・にぎわい

人を引き寄せ、交流とにぎわいがあふれる「みなとまち」をつくる

海や港は、市民の心や暮らしを豊かにし、まちににぎわいや憩いをもたらすことができる貴重な資源です。その価値を十分に引き出すことで、地域の人々の満足度や地域そのものの魅力を向上させ、地域全体の活性化や来訪者の増加につながります。

ゲートウェイ

旅のゲートウェイとして世界とつながる「みなとまち」をつくる

本市は、古くは東海道の宿場町として栄え、明治初期にかけては港に多くの貨物や旅客の往来があり、その後も石油化学コンビナートの立地に伴い工業都市として港と共に発展してきました。近年は、工場夜景の人気や、国内外のクルーズ船が寄港するなど観光面でも港が利用されています。

まちとの連携

まちとつながり、訪れやすい「みなとまち」をつくる

四日市地区は、最寄り駅のＪＲ四日市駅から東に約2kmの位置にあり、中心市街地から非常に近い位置にあります。しかし、駅と港の間には、鉄道路線や国道23号の横断により、両エリアは近くて遠い状況です。中心市街地と連携してみなとまちづくりを進め、みなとまち四日市としての潜在能力を最大限に発揮できるようにしていきます。

安全・安心

物流と人流が安心して共存できる「みなとまち」をつくる

四日市地区は、ばら積みの貨物（バルク）を中心として取り扱う物流機能を有しています。今後もその機能を維持するとともに、産業遺産や運河など、港ならではの景観などを活用することで、にぎわいを創出していきます。訪れる人の流れと物流を分離することで、安全で安心できるみなとまちを目指します。

ＢＡＵＲＡミーティング、ＢＡＵＲＡ ＤＡＹ

四日市地区にものや人が集まり、活気のあるみなとの実現のため、にぎわいのある新たな「よっかいち庭浦」をつくる取り組みとして、官民で連携し、さまざまなイベントを実施しています。

令和６年度も随時開催予定ですので、ご注目ください。

https://baura.jp/

身近な四日市港をもっと親しみやすく

四日市港四日市地区には、潮吹き防波堤や末広橋梁といった歴史的、文化的遺産が多くあり、また稲葉翁記念公園といった憩いの場があるにも関わらず、やはり「四日市港＝工業港」というイメージが強く、なかなか市民・県民の方に四日市港に来て親しんでもらうことが難しく、「こんなところがあるなんて知らなかった！」といわれることもしばしばありました。しかし、令和２年には四日市みなとまちづくり協議会が発足して、BAURA ミーティングが開催されるなど、四日市地区の活性化の機運が高まっています。私たちとしてもまちあるきや、港まつりなどのイベントを通じて、多くの市民・県民の方に港に親しんでもらえたらと考えています。

四日市港管理組合振興課
堀田大貴さん

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は　政策推進課　☎354-8112　FAX354-3974